

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>1 教育に関する事項</p> <p>(1)入学者の確保</p> <p>①.1 愛媛県小中学校長会の中学校部会長校、新規理事校等を校長と教務主事が訪問し、直接、訪問先校長に本校の教育・入試・進路等について概要説明を行う。また、今年度は西条市内の全中学校の校長に対して、同様の説明を行う。</p> <p>①.2 小中学生向けのイベント開催情報をウェブサイトに掲載するとともに、各種メディア(ケーブルテレビ、記者クラブ等)にも情報を発信する。</p> <p>①.3 毎月1回、メールマガジンを発信する。また、イベント等機会あるごとにメールマガジン配信登録の案内を行う。</p> <p>①.4 広報推進室が中心となり、入学志願者数が前年度を上回るよう中学校訪問等の広報活動を効果的に行う。</p> <p>①.5 松山地区の入学志願者を増やすことを目的に、元中学校長等をコーディネーターとして採用することを検討する。</p>	<p>1 教育に関する事項</p> <p>(1)入学者の確保</p> <p>①.1 愛媛県小中学校長会の新規理事校を訪問し、本校の概要説明を行った。この際、理事となった中学校の校長から、松山市内全中学校長会への参加依頼があり、同様の概要説明を行うことができ、後述②.1の地区別学校説明会での松山地区の参加校増加に繋がったと思われる。</p> <p>①.2 小中学生向けのイベント開催情報については、本校Webサイトのほか、地元ケーブルテレビ、無料広報誌等、各種メディアに広報・取材依頼を行い、締切期限の前に定員を満たすなど、大きな効果を得られた。</p> <p>①.3 メールマガジンは、入試情報やイベント情報などの案内を毎月1回発信した。</p> <p>①.4 広報推進室(入試広報担当)の計画の下、6月頃からの愛媛県内を始め近隣の中学校を訪問し、本校の概要説明及び入試に関する情報提供を行うとともに志願者状況等の情報収集を行った。11月頃から第2回目の中学校訪問を行い、具体的な志願者数等の情報収集を行った。また、各中学校が主催する進路説明会にも積極的に参加し、昨年度カラー化で好評であった広報誌「はばたけ未来へ」のダイジェスト版を引き続き配付するなど、志願者増加に向けた入試PRを行った。当該資料については、ある中学校で想定外の取扱いとなる事案があったため、中学校への周知方法や使用方法をわかりやすく明記するなど、今後の課題となった。</p> <p>①.5 松山地区の入学志願者を増やすことを目的に、元中学校の校長を入試広報コーディネーターとして9月に採用した。9月、10月で松山地区の中学校26校(島しょ部・へき地を除く)をそれぞれ2回訪問するなど、積極的にPR活動を行った。</p>

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>②.1 中学校の校長、進路指導主事等を対象に地区別の学校説明会を開催する。</p> <p>②.2 夏季体験学習、学校見学会(オープンキャンパス)、学園祭における入試問題解説コーナー、ミニキャンパスツアー等を実施する。</p> <p>②.3 中学生向け広報誌「はばたけ！未来へ」には、女子の在校生や卒業生の活躍の様子を多く掲載し、女子中学生への広報を行う。</p> <p>②.4 科学技術振興機構の「平成30年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム企画提案」に応募する。</p> <p>②.5 入学年度別志願者状況を作成し、地域における志願者の推移の分析を行う。</p>	<p>②.1 中学校の校長、進路指導主事等を対象に行った地区別学校説明会については、隔年実施の松山地区では前回より参加校が増え、広報活動の成果が表れた結果であった。直ちに志願者数の増加には繋がらなかったが、今後も前述の入試広報コーディネーターとともに、積極的なPR活動を継続し、松山地区の志願者数増加に努めることとする。また、毎年度実施している東予地区では参加校に偏りが見られるが、今後も志願者の増加に繋がるような説明会として継続実施する。</p> <p>②.2 中学生を対象に、8月に夏季体験学習を、9月に学校見学会(オープンキャンパス)を実施した。また、中学生に加え小学生も対象とした「ものづくりフェスタ in 松山」を8月に開催した。11月には学園祭(国領祭)において、入試情報コーナーを開設し、入試過去問題解説にあつては、例年を上回る参加者があり、志願者の増加に繋がる大変有効的な活動となった。</p> <p>②.3 中学生向け広報誌「はばたけ!未来へ」では、女子の在校生及び卒業生からのメッセージや写真を多く掲載し、女子中学生が興味を引く内容として作成した。入学後に新生を対象に実施した「新入生アンケート」において、志望学科の決定に当広報誌を活用する傾向が見られることから、更なる内容の充実を検討する。</p> <p>②.4 科学技術振興機構の「平成30年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム企画提案」に採択され、8月に「女子中高生のための工業都市 東予・夏の学校 2018」を開催した。また、11月には「貴女も受け継ぎませんか？技のチカラ」と題して女子中高生を対象に講演会を実施した。</p> <p>②.5 広報推進室において入学年度別志願状況を作成し、地域別の志願者の推移分析を行った。</p>
<p>③.1 各種広報誌、グッズ等の作成に当たっては、ステークホルダのニーズにマッチするよう配慮する。</p> <p>③.2 ウェブサイトにおいては、常に最新情報が発信できるよう更新に努めるとともに、コンテンツの充実を図る。</p> <p>③.3 公式SNSの開設について検討を進める。</p>	<p>③.1 各種広報誌については、ステークホルダのニーズにマッチするよう配慮して作成した。</p> <p>③.2 ウェブサイトにおいては、「KOSEN4.0”イニシアティブ」や上記②.4の「女子中高生のための工業都市 東予・夏の学校 2018」等の最新情報をトップスライドに配置して発信した。また、新たなコンテンツとして各学科における授業内容を「授業紹介」として発信を開始した。</p> <p>③.3 公式SNSの開設についてはリスク管理等の課題もあり、検討段階である。</p>
<p>④.1 アドミッションポリシーにふさわしい人材を選抜できるよう推薦選抜及び学力検査を適切に実施する。</p> <p>④.2 正確公正な入試を実施する。</p> <p>④.3 平成31年度入学生から導入する帰国子女特別選抜について、募集要項の作成等準備を進め、適切に実施する。</p>	<p>④.1 すべての入学者選抜検査を適切に実施し、アドミッション・ポリシーにふさわしい人材の確保ができた。ただし、専攻科生選抜検査においては、定員未充足のため12月に学力選抜(三次)及び社会人特別選抜(二次)を実施したが、受検者がなく定員の確保に至らなかった。</p> <p>④.2 正確公正な入試が実施できた。</p> <p>④.3 帰国子女特別選抜検査の適切な実施に向け、準備を進めた。志願者はいなかったが、選抜検査を実施する体制を整えることができた。</p>

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>⑤.1 入学者の学力水準については、受検資格を中学校における教科の評定が基準値以上の者とした推薦選抜を定員の40%程度で実施するとともに、学力選抜においても数学、理科を傾斜配点(他教科の2倍)して選抜するなど維持を図る。</p> <p>⑤.2 夏季体験学習、学校見学会(オープンキャンパス)、学園祭における入試問題解説コーナー、ミニキャンパスツアー等を実施して、本校の教育水準等の周知に努める。</p> <p>⑤.3 小・中学生向けに実施している学生主体型の出前授業を推進し、本校の教育を実体験させることで、より意識の高い入学者の確保につなげる。</p> <p>⑤.4 女子学生の受入を推進するため、現在進行中のトイレ改善整備計画に基づき、引き続き女子トイレの整備を推進する。</p> <p>⑤.5 女子学生用施設のニーズ調査を実施し、整備計画を策定の上、緊急度等に応じ整備を推進する。</p> <p>⑤.6 学寮改修については、平成28年度に策定した学寮整備計画に基づき予算要求を行う。</p>	<p>⑤.1 入学者の学力水準については、受検資格を中学校における教科の評定が基準値以上の者とした推薦選抜を定員の40%程度で実施するとともに、学力選抜においても数学、理科を傾斜配点(他教科の2倍)して選抜するなど維持を図っている。</p> <p>⑤.2 中学生を対象に、8月に夏季体験学習、9月に学校見学会(オープンキャンパス)を実施し、また、中学生に加え小学生も対象とした「ものづくりフェスタ in 松山」を8月に開催した。加えて、11月には学園祭(国領祭)において、入試情報コーナーを開設し、学科別ミニ見学会、受検相談コーナー及び過去問題解説を実施し、本校の教育水準等の周知に努めた。</p> <p>⑤.4,5 電子制御工学科棟1階女子トイレ・男子トイレの既設洋式トイレ(各1か所)に多機能便座を設置し、女子トイレの既設和式便器(1か所)を洋式便器に更新した。</p> <p>⑤.6 学寮改修については、継続して予算要求を行っている。</p>
<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①-1.1 産業構造の急速な変化や技術革新、地域のニーズ等に対応できる技術者を養成するための学科等の改組や本科・専攻科における新しい教育プログラム設置について、引き続き検討を進める。</p> <p>①-1.2 今後の高専のあり方について、第4ブロック(中国・四国地区)内の高専と協働して検討を進める。化学系学科を持つ4高専の化学工学協働共有事業は幹事校としてさらに事業を推進する。</p> <p>①-1.3 高専と大学との共同教育課程に関して、愛媛大学と情報共有し、意見交換する。</p>	<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①-1.1 地域の基幹産業を支える次世代型プラント技術者(PE)及びアシスティブテクノロジー(AT)技術者を養成する学科融合的な特別過程を本科に設置した(平成29年度KOSEN(高専)4.0イニシアティブ採択事業)。また、本校マシニング応用ラボを核とし、AI関連技術を基礎から応用まで修得することができる学年縦断・学科横断型カリキュラム「実践型AI活用技術者養成特別課程」を本科・専攻科に設置する計画を平成30年度KOSEN(高専)4.0イニシアティブに申請し、採択された。本年度は後期課外活動時間を利用して試行的に実施した。次年度から学年縦断・学科横断の選択科目として本科カリキュラムに組み込んでいる。また、この活動を3月8日に新居浜高専教育フォーラムを開催して、学内外に報告した。</p> <p>①-1.2 第4ブロック(中国・四国地区)化学系の化学工学の協働共有の幹事校として協働授業等を進めており、ビデオ教材を作成・共有活用して授業を実施した。また、この活動を全国高専フォーラムのオーガナイズドセッションにおいて発表した。</p> <p>①-1.3 高専と大学との連携教育プログラムに関して、愛媛大学に趣旨説明を行うとともに設置の可能性等について意見交換を行った。</p>
<p>①-2.1 運営諮問会議を開催し、地域のニーズ等について外部有識者から意見を伺い、本校の運営に活かす。</p> <p>①-2.2 企業の求める人材や高専卒業生の評価等について企業へのアンケート調査を実施し、教育課程の編成や授業実施方法の改善等の資料とする。</p>	<p>①-2.1 2月7日に外部有識者による運営諮問会議を開催し、本校の教育研究活動及び地域連携活動等について意見交換を行った。そこで得られた意見や提言を今後の学校運営に活かすこととする。</p> <p>①-2.2 3月1日に本校で開催した企業説明会に参加した企業を対象に、本校はじめ高専卒業生の評価として、企業の要求を満たしている能力、不足している能力等についてアンケート調査を実施した。アンケート結果については、学内で情報を共有し、今後の教育課程編成、授業実施方法の改善等の資料として活用する。</p>

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>②.1 CBT型学習到達度試験(「数学」「物理」等)を実施し、その結果を各担当教員が分析し、FDに役立てるとともに、教員会において報告を行う。</p> <p>②.2 上記学習到達度の向上等を目的に、ティーチング・アシスタントによる補習(TA補習)を通年で実施し、退学・留年学生の減少につなげる。</p> <p>②.3 本校においてTOEIC-IP試験を年2回実施し、3年生以上の本科学生全員には1回以上の、全専攻科生には2回の受験を課す。また、1、2年生の全学生にはTOEIC-Bridgeの受験を課し、得られた学生のスコアを参考に低得点者に対する指導を行い、英語力の向上を図る。</p> <p>②.4 TOEIC低得点の専攻科学生に対して補習を行う。また、本科希望者に対して英語学習会を企画・実施する。</p> <p>②.5 四国地区高専総合文化祭や全国高専対象の英語スピーチコンテストに出場する学生に対し、適宜指導を行う。</p>	<p>②.1 CBT型学習到達度試験(「数学」「物理」「化学」)を1年生、2年生、3年生の後期特別活動時間に実施した。その結果については、各担当教員が解析を行い、今後の指導計画等も含めて次年度の教員会で報告し、教員間での情報共有を図っていく。</p> <p>②.2 ティーチング・アシスタントによる数学・物理の補習(TA補習)を前期末試験前(6～7月)に4回、後期中間試験前(10～11月)に4回、学年末試験前(1～2月)に4回実施した。これにより退学・留年学生の減少につなげたい考えであったが、1、2年生の退学・留年学生数は若干増えた(H29は12名、H30は15名)ため、補習の実施体制や内容の見直しを行う予定である。</p> <p>②.3 英語力向上のためにTOEIC-IPを年2回実施した。1回目(5月)については3年生以上は原則全員受験させ、未受験の学生についてはTOEIC公開試験又は2回目(11月)のTOEIC-IPを受験するように指導した。その結果を教員会で報告して、情報の共有を図っていく。また、1回目の試験の未受験者への対策、低得点者への対策を講じた。</p> <p>②.4 専攻科生の英語力向上のために、補習に代わる方法として、英語教員による専攻科生の個別カウンセリングを開始した。また、高学年対象の英語学習会を年間通して実施した。</p> <p>②.5 全国高専英語プレゼンテーションコンテストの地区大会に出場予定の学生に対し、夏季休業前から指導を行った。12月に四国地区高専英語主任会議を実施し、四国地区高専英語スピーチコンテストへの対応等について協議を行った。</p>
<p>③.1 「勉学アンケート」及び「授業アンケート」を実施、その結果を分析し、教員にフィードバックすることで授業改善につなげる。</p> <p>③.2 「担任アンケート」を実施、その結果を分析し、教員にフィードバックすることで学生指導に活かす。</p>	<p>③.1 授業アンケート、勉学アンケートを実施した。今後の授業改善に活かすため、アンケート結果を分析し、教務委員会を通じて教員にフィードバックした。</p> <p>③.2 担任アンケートを1月に実施した。その結果を基に最優秀教員を選出するとともに、今後の学生指導に活かすように担任にフィードバックした。</p>

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>④.1 高専機構が主催・共催するコンテスト等に参加するとともに、その他のコンテスト等にも参加を推奨し、その活動を支援する。</p> <p>④.2 学内において「チャレンジプロジェクト」を継続して実施し、学生のチャレンジを支援する。</p>	<p>④.1 ロボットコンテストでは、全国大会出場を目指し健闘したが、2チームとも予選リーグでの敗退となった。しかしながら、それぞれ特別賞を受賞した。このほかプログラミングコンテストでは、競技部門に出場し、デザインコンペティションには構造デザイン部門で2作品が参加した。</p> <p>④.2 学内においては、高専の特徴を活かした活動、地域社会への貢献、ボランティア活動等に対し経費支援(後援会)を行う「チャレンジプロジェクト」を実施した。今年度は、コンテスト、システム開発、語学、新企画、環境保全に関する9プロジェクトが支援を受けそれぞれ活動に取り組んだ。</p> <p>これらの活動は、学園祭での展示や受検生向けの広報でも紹介し、高専の魅力を伝えるPRにも繋がっている。今後はチャレンジした結果や経験をどのように報告し、第三者がどのようにその感動や魅力を共有できるのか、プロジェクト終了後のフォローアップが必要である。また、チャレンジ項目の多様化が進み、多数の団体が支援を求めているため、今後、後援会に対し現状報告を行うとともに更なる支援拡大について協力依頼を行う予定である。</p>
<p>⑤.1 ローターアクトクラブが継続して行っているボランティア活動について、四国地区高専総合文化祭等において活動報告を行い、四国地区高専内に周知を行う。</p> <p>⑤.2 学生会と新居浜市との里親契約に基づき、定期的に本校周辺の清掃を実施する。</p>	<p>⑤.1 ローターアクトクラブのボランティア活動については、四国地区高専総合文化祭への参加はできなかったが、年2回開催される「高専ソコチカラ」等において活動報告を行った。</p> <p>⑤.2 毎週金曜日の放課後、里親清掃として学生環境委員長の呼びかけのもと、構内外のごみ拾いを行っている。毎回、学生・教職員30名ほどが参加した。</p>
<p>(3)優れた教員の確保</p> <p>①.1 公募要領の「その他」の欄に、「多様な背景を持つ教員組織を目指しており、高等教育機関に勤務経験のある方のみならず、高等学校、民間企業、研究機関等に過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」旨を記載し、優れた教員の確保に努める。</p> <p>①.2 教員公募の際、教職員の人的ネットワークを駆使し、民間企業、近隣の大学等に直接、公募の案内を行い、応募者を増やすとともに、人事委員会において、多様な背景を持つ人材の採用に留意する。</p>	<p>(3)優れた教員の確保</p> <p>①.1,2 今年度は、平成31年4月1日付け採用に係る5件(機械工学科・電気情報工学科、生物応用化学科、環境材料工学科、一般教養科(国語))の教員公募を実施し、電気情報工学科を除く4件については採用することができた。機械工学科は大学発ベンチャー企業勤務者(社会人博士課程修了見込・海外での客員研究員歴あり)、生物応用化学科は博士課程修了見込者、環境材料工学科は社会人経験のある博士課程修了見込者、一般教養科(国語)は民間企業、大学非常勤講師経験者(博士の学位あり)と、それぞれ多様な背景を持つ人材である。</p>
<p>② 「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、教員の受入・派遣を推進する。</p>	<p>② 「高専・両技科大間教員交流制度」では、今年度は、派遣、受入とも、希望者がいなかった。</p> <p>「同居支援プログラム」では、久留米高専から1名を受け入れていたが、平成30年度をもって2年の受入期間は終了した。</p>

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>③ 公募要領では、専門科目、一般科目とも「博士の学位を持つ者(又は同等の研究業績を有する者)」を応募資格としており、今後も継続することにより、優れた教育力を有する者の割合を増加させる。</p>	<p>③ 今年度は機械工学科、電気情報工学科、生物応用化学科、環境材料工学科及び一般教養科の5件の教員公募を行い、一般教養科(国語)を除く4件の公募においては、「博士の学位を持つ者」を応募資格とした。なお、一般教養科(国語)については、「修士以上の学位を持つ者」を応募資格としたが、これは分野や、職種(講師又は助教)、そして「女性限定公募」としていることを勘案し、幅広い人材からの応募を期待して人事委員会において認められた公募である。しかし、結果としては、採用に至らなかった電気情報工学科を除く4学科について、「博士の学位を持つ者(1年以内取得見込みを含む(指導教員に確認済))」を採用することができた。</p>
<p>④.1 教員公募では、女性優先公募を原則とするほか、分野によっては、女性限定で試行的に行う。 ④.2 今年度も「校長と女性教職員との懇談会」を開催し、育児と仕事の両立支援策、女性教員のキャリア形成、就業環境改善等について意見交換を行う。 ④.3 女性教職員用施設のニーズ調査を実施し、整備計画を策定の上、緊急度等に応じ整備を推進する。</p>	<p>④.1 今年度実施した5件の教員公募では、2件(生物応用化学科、一般教養科(国語))を「女性限定公募」、他の3件を「女性優先公募」として実施し、「女性限定公募」では2名の女性教員を採用することができた。 ④.2 「校長と女性教職員との懇談会」を1月23日に開催し、今年度は17名の女性教職員が参加した。懇談会では、職場環境の改善・要望等について意見交換を行った。 ④.3 全教職員向けに施設ニーズ調査を実施し、その結果、管理・電気情報工学科棟1階西側女子トイレについて、出入口に関する構造改善の要望があった。</p>
<p>⑤.1 「新任教員研修会」「中堅教員研修」「教員研修(管理職研修)」等に教員を参加させ、教育能力等の向上を図る。 ⑤.2 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(以下、「SPOD」という。)ーFDプログラムを本校で開催する。 ⑤.3 SPODが主催するFDセミナー等への積極的な参加を促す。 ⑤.4 全国高専フォーラムのワークショップに参加し、得られた成果や情報を教員会等で報告する。 ⑤.5 FD研修のブロック内での協働について検討を進める。</p>	<p>⑤.1 「新任教員研修会」(2名)、「中堅教員研修」(1名)、「教員研修(管理職研修)」(1名)、「学生支援担当教職員研修」(2名)に参加させ、教育能力等の向上に取り組んだ。 ⑤.2 SPOD講師派遣プログラムとして、11月28日に、徳島大学から講師を招いて、「アクティブラーニング実践(成功のためのアイスブレイキング)」を開催し、22名が参加した。 ⑤.3 SPOD開設プログラムについては、同事務局からの開催通知を全て学内へメール周知し参加を推奨した。その結果、FDプログラムに1名が参加した。 ⑤.4 全国高専フォーラムでは、1名がオーガナイザーとしてオーガナイズドセッションを運営し、5名がポスターセッションにおいて教育研究活動の発表を行った。そのほか、各セッションやワークショップに6名が参加した。 ⑤.5 FD研修のブロック内での協働について今後検討する予定である。</p>
<p>⑥ 高専機構の顕彰制度に加えて、学内顕彰も継続して実施する(優秀教員、優秀担任)。</p>	<p>⑥ 11月に学内顕彰制度により、最優秀教員2名(一般部門、若手部門各1名)と優秀教員3名を選出し、最優秀教員については、高専機構の顕彰制度に基づき推薦した。また、優秀担任を3月に選出した。</p>

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>⑦.1 在外研究員及び内地研究員として参加しやすい環境(支援体制)を充実させ、教員の国内外派遣を推進する。</p> <p>⑦.2 「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、教員の受入・派遣を推進する。【再掲②】</p>	<p>⑦.1 教員の派遣については、校長の指示の下、派遣できる機会があれば、学科の校務分担を見直すこと等により、派遣を最優先させることとしており、平成30年度は数理科教授1名を在外研究員としてカリフォルニア大学ロサンゼルス校に派遣した。また、平成31年度分について2名の教員を推薦したが、残念ながら2名とも不採択であった。</p> <p>⑦.2 「高専・両技科大間教員交流制度」では、今年度は、派遣、受入とも、希望者がいなかった。</p> <p>「同居支援プログラム」では、久留米高専から1名を受け入れていたが、平成30年度をもって2年の受入期間は終了した。【再掲②】</p>
<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>①-1.1 全国高専フォーラム等でモデルコアカリキュラムを活用した教育実践に関する情報を収集し、学内では学生に対する周知の徹底、各専門学科における実施状況等を把握する。</p> <p>①-1.2 モデルコアカリキュラム到達度評価のためのルーブリックやCBTによる質保証等の研修に参加し、授業内容や評価方法の改善、CBT活用を促進する。</p> <p>①-1.3 ラーニングマネジメントシステムとして「WebClass」を活用し、学生の予習・復習や自学自習をサポートする。</p> <p>①-1.4 科目間調整連絡会を開催し、専門基礎科目と専門科目の一層の連携を図る。</p> <p>①-1.5 学修単位科目(平成29年度導入、平成32年度開講開始)において、学生の授業時間外の主体的な学修の評価方法やエビデンス(CBT活用等)について検討を進める。</p>	<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>①-1.1 全国高専フォーラムの「モデルコアカリキュラムによる教育改善」ワークショップに参加し、教育実践に関する情報収集を行った。また、年度当初の始業式では、主事講話において全学生にMCC及びWebシラバスについて周知を行った。さらに、教務委員会を通じて、最初の授業の時にMCCやシラバス記載のルーブリックについての説明を必ず行うように授業担当者に依頼した。</p> <p>①-1.2 平成30年度教育改革推進本部プロジェクト「分野別工学実験・実習能力及び実質化に関する評価指標の開発」及び「分野横断的能力に関するアセスメント評価モデルの構築」の連携校・協力校として会合に参加した。12月3日に実験スキルプロジェクトの第4ブロックワークショップを本校で実施し、参加した教員を中心にその後の学内展開を進めた。</p> <p>①-1.3 WebClassを自学・自習教材の提示や勉強アンケート集計等に活用した。</p> <p>①-1.4 数学、物理の専門基礎科目について、授業内容等の改善に活かすため、科目間調整連絡会を11月、12月にWebClass上で開催した。</p> <p>①-1.5 学修単位科目における授業時間外の主体的な学修の評価方法やエビデンスについて、教務委員会を中心に検討を進めた。令和2年度の4年生からカリキュラム変更に備え、次年度具体的な取組内容を決定する。</p>
<p>①-2.1 高専機構の各種アプリケーション開発・運用等の活動に対応する。</p> <p>①-2.2 各種アプリケーションの先行稼働校との情報共有を図る。</p>	<p>①-2.1 情報戦略責任者会議(8月)に参加し、情報収集を行った。また、KOREDAのハンズオン研修の実施等、高専機構の各種アプリケーション開発・運用等の活動に対応中である。</p> <p>①-2.2 KOREDA等、各種アプリケーションの先行稼働校との情報共有を実施した。</p>

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>②.1 JABEE認定プログラム(現在1プログラム、平成32年度まで)については継続審査を受審しないが、教育の質の向上を継続して図るために、学外の有識者及び学内の点検機関等を通じてPDCAサイクルを意識した教育改善活動を行う。</p> <p>②.2 大学改革支援・学位授与機構が行う高等専門学校機関別認証評価の評価基準に基づき、自己点検書の作成準備を行う。また、点検、改善が必要な項目の確認も行う。</p> <p>②.3 各学科に適した資格取得を学生に奨励するとともに、単位認定を行う。</p>	<p>②.1 平成29年度分から自己点検報告書の見直しを行い、機関別認証評価の評価項目に準拠した新たな点検書を作成し、教員会で報告を行った。また、点検した結果を2月に開催する運営諮問会議(外部評価)で報告した。</p> <p>②.2 機関別認証評価の評価項目に準拠した新たな点検を行い、独自の自己点検表を作成した。概ね基準を満足していたが、改善が必要な項目については関連部署に報告した。</p> <p>②.3 在学中の資格取得を促進するために、適切な資格試験を学生に提示するとともに、一部の試験については本校を会場とするなど学生に便宜を図った。</p>
<p>③.1 四国地区高専間の学生会交流会、全国高専学生会交流会に参加する。</p> <p>③.2 四国地区高専との連携・交流事業に参加する。</p> <p>③.3 弓削商船高専が四国地区高専間の連携・交流事業として開講する「特別講義」に参加する。</p>	<p>③.1 8月27日～29日に仙台高専において開催された全国高専学生会交流会(31高専)に3名が参加し、情報交換するとともに交流を深めた。また、12月15日には四国地区高専の学生会交流会に参加した。</p> <p>③.2,3 弓削商船高専が四国地区高専連携・交流事業として実施する「特別講義」において、本校教員を講師として派遣するとともに、今年度は7名の学生が参加した。</p>
<p>④.1 教員に対してOffice365の活用を促し、好ましい事例等の情報共有や教育改善につなげる。</p> <p>④.2 全国高専フォーラム等で、特色ある教育改善活動を報告するとともに、他高専の取組状況等も参考にして教育改善活動を行う。</p>	<p>④.1 学内外でOffice365を活用している教員はいるが、現状では少数である。今後、教員会で積極的な活用を促し、好ましい事例等について情報共有を行う。</p> <p>④.2 全国高専フォーラムで、「高専間協働共有授業および教材開発の課題と展望」と題し、化学工学の協働授業について幹事校である本校の教員がオーガナイズドセッションを開催した。また、本校から4名の教員がポスターにて教育改善活動を報告し、他高専の取組状況についても情報交換を行った。</p>
<p>⑤.1 大学改革支援・学位授与機構が行う高等専門学校機関別認証評価の評価基準に基づき、自己点検書の作成準備を行う。また、点検、改善が必要な項目の確認も行う。【再掲②.2】</p> <p>⑤.2 年度計画及び事業実績をウェブサイトにおいて公表する。</p> <p>⑤.3 高等専門学校機関別認証評価(平成26年度受審)の評価結果についても引き続きウェブサイトにおいて公表する。</p>	<p>⑤.1 機関別認証評価の評価項目に準拠した新たな点検を行い、独自の自己点検表を作成した。概ね基準を満足していたが、改善が必要な項目については関連部署に報告した【再掲②.2】</p> <p>⑤.2 平成30年度年度計画及び平成29年度事業実績をウェブサイトにおいて公表した。</p> <p>⑤.3 高等専門学校機関別認証評価(平成26年度受審)の評価結果についても引き続きウェブサイトにおいて公表している。</p>

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>⑥.1 地域の基幹産業を支える次世代型プラント技術者(PE)及びアシスティブテクノロジー技術者(AT)を養成する学科融合的な特別課程を設置(平成29年度KOSEN(高専)4.0イニシアティブ採択課題)し、4年生と5年生の選択科目として開講する。特別課程のプログラムとして、地元企業や医療福祉施設とのコーオプ教育を実施する。学内外の関係者に取組状況を適宜報告し、情報を共有する。</p> <p>⑥.2 本科4年生及び専攻科1年生の全員がインターンシップに参加できるように支援する。また、海外インターンシップへの参加についても支援し、単位認定を行う。</p> <p>⑥.3 新居浜高専技術振興協力会(以下、「愛テクフォーラム」という。)の会員企業と連携して企業技術者による講義の充実を図る。</p> <p>⑥.4 愛媛大学との包括協定により、非常勤講師の推薦(斡旋)やインターンシップ、ものづくりフェスタ等の事業を実施する。</p>	<p>⑥.1 地域の基幹産業を支える次世代型プラント技術者(PE)及びアシスティブテクノロジー技術者(AT)を養成する学科融合的な特別課程を設置(平成29年度KOSEN(高専)4.0イニシアティブ採択課題)し、4年生と5年生の選択科目として開講した。特別課程のプログラムとして、地元企業や医療福祉施設とのコーオプ教育を実施した。学内外の関係者に取組状況を適宜報告し、情報を共有した。今年度、PE及びATの特別課程に最終的にそれぞれ20名と22名の学生が受講した。3月8日に本校にて教育フォーラムを実施し、学内外の関係者に今年度の活動報告を行った。</p> <p>⑥.2 本科4年生及び専攻科1年生の全員がインターンシップに参加できるように支援した。また、海外インターンシップへの参加についても支援し、2名の学生に対し教務委員会における審議を経て単位認定を行った。</p> <p>⑥.3 愛テクフォーラムと連携して、講義内容に適した現職企業人に「経営工学」(5年後期)の講師を依頼し、講義を実施した。</p> <p>⑥.4 非常勤講師の派遣、本校学生のインターンシップ実施のほか、本校の広報活動のひとつである「ものづくりフェスタin松山」の開催を愛媛大学と連携して8月に実施した。</p>
<p>⑦.1 5年生の授業科目「経営工学」(全学科:後期)において、地元企業の技術者及び本校卒業生を講師として授業を実施する。</p> <p>⑦.2 四国地区高専地域イノベーションセンターと日本弁理士会四国支部との連携事業として、「第4回知財活動研究会」を実施する。</p> <p>⑦.3 高専機構と日本弁理士会とが主催する「学生向け知的財産セミナー(概要編)」を実施する。</p> <p>⑦.4 愛媛県職業能力開発協会と連携し、「機械・プラント製図」「機械検査」のマイスターによる講習会を実施し、受講学生にそれぞれの技能検定3級を受検させる。</p>	<p>⑦.1 5年生の授業科目「経営工学」を、地元企業(4社)の技術者及び本校卒業生4名を講師として実施した。</p> <p>⑦.2 1月25日に四国地区高専地域イノベーションセンターと日本弁理士会四国支部との連携で実施された「第4回知財活動研究会」に関係教職員が参加した。</p> <p>⑦.3 日本弁理士会講師による「学生向け知的財産セミナー(概要編)」を、6月15日に生物応用化学科4年生(40名)を対象に、10月23日にはアシスティブテクノロジー技術者育成特別課程の4年生(14名)を対象に実施した。</p> <p>⑦.4 愛媛県職業能力開発協会と連携して、機械系学生を対象に「機械・プラント製図」及び「機械検査」のマイスターによる講習会を実施した。その結果、「機械・プラント製図」技能検定3級に2名、「機械検査」技能検定3級に34名が合格した。</p>
<p>⑧.1 ISTSに、学生を参加させ発表を行う。</p> <p>⑧.2 ISATEに、教員を参加させ発表を行う。</p> <p>⑧.3 高専・技科大連携プロジェクトへの積極的な参加を推進する。</p>	<p>⑧.1 ISTSに専攻科生物応用化学専攻2年生1名を派遣した。</p> <p>⑧.2 ISATEに電気情報工学科教員1名が参加し、発表を行った。</p>

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>⑨.1 情報教育センターの情報教育推進部門を中心に、ICTを活用した教育の導入を推進する。</p> <p>⑨.2 「情報セキュリティ人材育成事業」に実践校として継続して参画し、情報セキュリティ教育の実践・展開を行う。</p> <p>⑨.3 平成29年8月に更新した校内ネットワーク機器(高専機構共同調達)の利便性向上・活用を推進する。</p> <p>⑨.4 将来の教育用電子計算機システムの構想を検討する。</p> <p>⑨.5 四国地区高専における「学術情報ネットワーク(SINET5)アクセス回線」調達の主担当校として各高専と連絡調整の上、調達業務に当たる。</p>	<p>⑨.1 ICTを活用した教育のためネットワーク及び演習室の環境整備を推進した。</p> <p>⑨.2 「情報セキュリティ人材育成事業」に実践校として継続して参画し、情報セキュリティ教育の実践・展開を実施中である。特別活動への講師派遣による情報セキュリティ講話(5件)、学外講師(四国管区警察局)による講演(3クラス参加)および実習(7名参加)、セキュリティイベント「SEC道後2019」のバーチャルキャンパス(遠隔生中継)会場を学内設置、学外セキュリティイベントへの学生派遣(1名)等を実施した。</p> <p>⑨.3 平成29年8月に更新した校内ネットワーク機器(高専機構共同調達)の利便性向上・活用を推進中である。無線APの一部接続開始、VLANの設定見直しによるアクセス制御の適正化等を推進した。</p> <p>⑨.4 将来の教育用電子計算機システムの構想を検討している。また、一部授業でBYODを試行した。</p> <p>⑨.5 四国地区高専における「学術情報ネットワーク(SINET5)アクセス回線」調達の主担当校として、各高専と連絡調整の上調達業務を実施した。</p>
<p>(5)学生支援・生活支援等</p> <p>①-1.1 保健管理センター移転に伴う施設・設備の充実を図るとともに、センター報を発刊する。</p> <p>①-1.2 公的機関が開催する学生相談やメンタルヘルスに関する講習会に積極時に参加し、学内でも教員会等で報告するなど他の教職員への情報共有を図る。</p> <p>①-1.3 メンタルヘルス等に関する教職員向けの学内研修会を開催する。</p> <p>①-1.4 1、2年生を対象に不登校学生、いじめ被害の予防対応のためにアンケート調査を行い、全学年を対象に「こころと体の健康調査」を年2回実施する。</p> <p>①-1.5 非常勤看護師を配置するとともに、精神科医をはじめ学外カウンセラー等を毎日配置することで学生指導支援体制の充実を図る。</p> <p>①-2.1 授業料免除、入学金免除について、適切に実施する。</p>	<p>(5)学生支援・生活支援等</p> <p>①-1.1 センター報の発刊まで至っていないが、ウェブサイトの充実を図り、全学生が集まる集会等において保健管理センターが担う業務の周知や施設の紹介を行った。</p> <p>①-1.2 年間10件ほどのJASSO等が主催する学生相談等の研修会に教員を派遣し、教員会やセンター会議にて研修内容を共有した。</p> <p>①-1.3 10月に1年生向けに認知行動療法の研究授業を開催し、これに教員も参観し研修を受けた。参加する教員が限られており、全教員の意識改革が必要である。</p> <p>①-1.4 年度初めに、学校適応感尺度調査を行い学生相談室でとりまとめ担任に情報を共有し連携を図った。また、いじめアンケートを後期の初めに実施した。各担任の結果の取扱いについての共通認識や指導・対応方法の研鑽が必要である。</p> <p>①-1.5 学生指導支援体制整備費により、学外カウンセラーの平日の配置が可能になり、毎日の学生相談に対応している。相談内容の多様化等にて、カウンセラーの増員を検討しているが、カウンセラーの人材が不足している。市内のスクールソーシャルワーカーを担う法人との連携が取れ、次年度からの体制を協議した。</p> <p>①-2.1 授業料免除については、4年生以上の学生に学内掲示及びクラス内掲示により周知に努めた。</p>
<p>② 学寮整備計画に基づき計画的な改修整備の予算要求を実施する。</p>	<p>② 学寮改修については、継続して予算要求を行っている。【再掲(1)⑤.6】</p>

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>③ 各種奨学金制度(財団法人三浦教育振興財団、財団法人中西奨学会、財団法人ウシオ財団、天野工業技術研究所奨学基金、愛媛県奨学生、公益信託武智義加ものづくり奨学基金、財団法人関育英奨学会、独立行政法人日本学生支援機構など)については、教室への掲示や担任等を通じて、学生への周知(案内)を行う。</p>	<p>③各種奨学金制度については、募集期間に余裕を持って学生に周知するとともに迅速な申請対応に努め、以下のとおり採用となった。 日本学生支援機構給付型奨学金1名、愛媛県奨学金4名、伊予銀行奨学金4名、(公財)ウシオ財団奨学金1名、(公財)三浦教育振興財団奨学金3名、(公財)天野工業技術研究所奨学金1名、(一財)中西奨学会奨学金1名、あしなが育英会奨学金1名</p>
<p>④-1.1 キャリア教育を推進するため、「愛テクフォーラム」等とも連携し、学生と地域産業界との情報交換の場として「地元企業と学生の懇談会」等を開催する。 ④-1.2 校内に設置している「キャリア教育プラザ」の有効利用を図る。 ④-1.3 本校同窓会と協力した学生への支援活動として、本校卒業の企業OBによる就職相談会を開催する。 ④-1.4 キャリア教育の一環として、1～4年生において工場見学等の学外研修を実施する。 ④-2.1 学内での企業説明会を継続して開催するとともに、開催時期、開催方法、運営方法について検討する。 ④-2.2 就職率(就職者数/就職希望者数)100%維持を目標とする。</p>	<p>④-1.1 12月～1月に、愛テクフォーラム会員企業16社による学生との懇談会を実施した。 ④-1.2 「キャリア教育プラザ」は、学生の憩いの場として活用されているが、キャリア教育の情報が一般的なポスター掲示のみであるため、キャリア支援としての機能性は低い。今後、企業説明会のあり方も含め、外部の専門員を配置するなど、キャリア支援室(仮称)の設置を促進する。 ④-1.3 11月の学園祭において、「OBルーム」や「ひうちサロン」として卒業生(同窓会)との交流、キャリア相談の場を設けた。 ④-1.4 5月に1～4年生の全クラスが、企業見学等の学外研修を行った。 ④-2.1 3月1日に、160社(午前、午後に各80社)を招いて企業説明会を開催した。昨年の実績で、就職希望者の7割が、企業説明会参加企業への就職に繋がっている。就職協定の変化に対応できるよう、アンケート等により運営方法を改善する。 ④-2.2 就職希望者に対して100%の目標を達成した。</p>
<p>(6)教育環境の整備・活用</p> <p>①-1.1 施設のニーズ調査、整備要望を踏まえ、策定済みのキャンパスマスタープランの見直しを図る。 ①-1.2 各学科等からの整備要望のとりまとめ及び施設パトロールにより校内全体の整備需要・要望を把握の上、施設整備計画を策定し、緊急度・必要度に応じた計画的な改善整備を推進する。 ①-1.3 施工規模の大小にかかわらず、省エネ型器具、再生材料や木材等の自然資源を積極的に取り入れ、ランニングコスト低減と地球環境に配慮した設計・施工を推進する。 ①-2 非構造部材の耐震点検・耐震対策チェックリストに基づくパトロールを月一回ペースで実施し、必要に応じて対策を講じる。 ①-3 本校で保有していたPCB廃棄物は、平成29年度に全て処理を完了</p>	<p>(6)教育環境の整備・活用</p> <p>①-1.1 キャンパスマスタープラン策定に向けたWGを立上げ、2019年度営繕要求時まで改定版の完成を目指すこととなった。 ①-1.2 施設整備計画を策定し、緊急度・必要度に応じ改善整備を実施中である。 ①-1.3 修繕部分に応じた省エネ機器の導入を実施中である。 ①-2 計画どおり実施中である。 ①-3 PCB含有電気部品を用いた実験装置が8件見つかった。2019年度内の処理完了を計画している。</p>

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>②.1 外部講師による放射線業務従事者研修会及び安全衛生講習会を実施する</p> <p>②.2 新入生及び新任教職員に「実験実習安全必携」を配付する。</p>	<p>②.1 7月23日に、講師として四国電力(株)広報グループ所属の放射線取扱主任者を招いて、放射線業務従事者講習会を開催し、関係教員10名及び技術職員1名が参加した。また、12月14日に、講師として愛媛大学大学院医学系研究科救急医学講座・教授を招いて、教職員を対象とした防災に関する安全衛生講演会を開催し、教職員26名が参加した。</p> <p>②.2 新入生へ「実験実習安全必携」の配付を行った。</p>
<p>③-1.1 教職員対象に外部講師によるワーク・ライフ・バランス等に関する研修会を開催する。</p> <p>③-1.2 学外機関が主催する男女共同参画に関する研修会に男女共同参画推進室員を派遣する。</p> <p>③-1.3 ワーク・ライフ・バランスに関する具体的な支援事業について、学内教職員への情報発信を促進する。</p> <p>③-1.4 男女共同参画に関する情報をウェブサイトにおいて発信する。</p> <p>③-2.1 第3回第4ブロック男女共同参画推進担当者協議会を幹事校として開催し、情報の共有・普及を行う。</p>	<p>③-1.1 11月27日に講師を招いて、「ライフシフト」に関する講演会を開催した。</p> <p>③-1.2 国立女性教育会館主催の「大学等関係者向け男女共同参画プログラム」(推進室員1名)に参加した。</p> <p>③-1.3 ワーク・ライフ・バランスに関する具体的な支援事業については、その都度、全教職員へ周知している。</p> <p>③-1.4 「新居浜市女性活躍等推進事業所」に認定され、本校ウェブサイト等でPRを行っている。</p> <p>③-2.1 11月2日に第3回第4ブロック男女共同参画推進担当者協議会を幹事校として開催し、ブロック内での情報共有を行った。</p>
<p>2 研究や社会連携に関する事項</p> <p>①.1 科学研究費の申請・採択件数の増加を目的とした講習会等を実施する。</p> <p>①.2 外部資金獲得のための「外部資金獲得グループ」を3グループ(電子技術応用、マシンラーニング応用ラボ、新技術開発・文理融合検討)に再編し、採択率向上のためにグループ内で相互に申請内容のブラッシュアップなどを行う。</p> <p>①.3 「国立高専科研費計画調書査読者ネットワーク」を活用し、申請数を増やす。</p> <p>①.4 研究業績の向上と外部資金獲得を目的に、学術論文誌への投稿を義務付けた校長裁量経費「共同研究推進費」の募集を行う。</p> <p>①.5 科学研究費以外の各種財団等が公募する助成金等への申請を推進するため、各公募ごとに申請可能と考えられる教員に対し個別に申請を促す。また、公募申請者には校長裁量経費「外部資金獲得推進経費」による支援を行う。</p> <p>①.6 高専機構の研究推進経費への応募を促し、研究を活性化させる。</p>	<p>2 研究や社会連携に関する事項</p> <p>①.1 7月17日に科学研究費の申請・採択件数の増加を目的に、徳島大学の教授を講師に迎え、研究計画調書作成時の注意点、教育分野での申請ポイント等について、自身の経験や数値データに基づく講習会を実施した。</p> <p>①.2 外部資金獲得グループ内において、一部の案件で採択を目的に相互で申請内容のブラッシュアップなどを行った。</p> <p>①.3 「国立高専科研費計画調書査読者ネットワーク」の活用を奨励したが、今年度は利用者がいなかった。積極的な活用が望まれるところである。</p> <p>①.4 学術論文誌への投稿を義務付けた校長裁量経費「共同研究推進費」の募集を行い、3件を採択し研究支援を行った。</p> <p>①.5 科学研究費以外の各種財団等が公募する助成金等への申請には、研究推進担当教員が個別に申請を促しており、25件の申請(結果待を含む)で、8件 920万円が採択された。また、当該助成金等への申請者には、「外部資金獲得推進経費」を配分し研究支援を行った。</p> <p>①.6 高専機構の研究ネットワーク形成事業(継続分)に採択された2名の教員が、研究を活性化させるため他高専の教員等との連携を図っている。</p>

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>②.1 イノベーションジャパン等のマッチングイベントへの出展を推進する。</p> <p>②.2 本校主催の「新居浜高専工業技術懇談会」等において、地域の企業技術者等を対象に研究シーズ紹介を行い、共同研究等へつなげる。また、(公財)えひめ東予産業創造センターとも連携して、地域企業内等での研究シーズ紹介も検討する。</p> <p>②.3 愛媛大学工学部との連携協力を推進させるため、「新居浜高専－愛媛大学工学部交流会」を開催し、共同研究、外部資金獲得等につなげる。</p> <p>②.4 産業技術総合研究所における研究事例の紹介と情報交換を目的に「新居浜高専－産総研交流会」を開催し、研究活動の活性化につなげる。</p>	<p>②.1 8月30日に開催された「イノベーション・ジャパン2018」に1件、「アグリビジネス創出フェア2018」(11月20日～22日)に2件、四国オープンイノベーションワークショップin徳島(12月6日)に2件出展した。</p> <p>②.2 8月6日及び9月21日に「新居浜高専工業技術懇談会」を開催し、地域企業技術者等を対象に教員3名の研究シーズを紹介した。</p> <p>②.3 9月21日に「新居浜高専－愛媛大学工学部交流会」を開催し、相互の研究や技術について意見交換を行った。</p> <p>②.4 12月10日に産業技術総合研究所 関西センターから講師を招き、「第3回新居浜高専－産総研交流会」を開催し、研究事例の紹介と情報交換を行った。</p>
<p>③.1 知的財産業務に従事する教職員向け講習会への参加を推奨する。</p> <p>③.2 四国地区高専地域イノベーションセンターと日本弁理士会四国支部との連携事業として、「第4回知財活動研究会」を実施する。【再掲1(4)⑦.2】</p> <p>③.3 高専機構と日本弁理士会とが主催する「学生向け知的財産セミナー(概要編)」を実施する。【再掲1(4)⑦.3】</p>	<p>③.1 7月3日に開催された工業所有権情報・研修館等主催の「知的財産権制度説明会(初心者向)」に1名の事務職員が参加した。</p> <p>③.2 1月25日に四国地区高専地域イノベーションセンターと日本弁理士会四国支部との連携で実施された「第4回知財活動研究会」に関係教職員が参加した。【再掲1(4)⑦.2】</p> <p>③.3 日本弁理士会講師による「学生向け知的財産セミナー(概要編)」を、6月15日に生物応用化学科4年生(40名)を対象に、10月23日にはアシスティブテクノロジー技術者育成特別課程の4年生(14名)を対象に実施した。【再掲1(4)⑦.3】</p>
<p>④.1 教員の年間業績報告書を作成し、ウェブサイトで公開する。</p> <p>④.2 高度技術教育研究センターのウェブサイトに掲載の「教員研究テーマ紹介」「所有特許紹介」「最近の研究成果」を更新する。</p> <p>④.3 国立高専研究情報ポータルサイト内の「研究・技術シーズ」へ全教員の登録と最新情報への更新を促していく。</p> <p>④.4 上記ポータルサイトのほか、Researchmapも同様の対応を行う。</p> <p>④.5 本校の研究活動の一部を一般市民にも知ってもらうため、新居浜市役所玄関ロビーにおいて研究シーズに関するパネル展示を行う。</p>	<p>④.1 平成29年度における教員の年間業績報告書を作成し、本校ウェブサイトで公開した。</p> <p>④.2 高度技術教育研究センターのウェブサイトに掲載の「教員研究テーマ」「所有特許紹介」「最近の研究成果」を最新情報に更新した。</p> <p>④.3,4 Researchmap の更新を促すとともに、国立高専研究情報ポータルサイト内の「研究・技術シーズ」へ全教員が登録するよう推進したが、まだ6割弱に留まっている。</p> <p>④.5 12月17日～21日の1週間、新居浜市役所の1階ロビーにおいて本校の研究シーズをパネル展示し、一般市民にも研究活動の一部を紹介した。</p>

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>⑤.1 地域の小中学生を対象に実施している出前サイエンス講座では、新しいテーマを追加するなど内容の充実を図るとともに、参加者の満足度等のアンケート調査も行い、今後の改善に反映させる。また、同講座のウェブサイトを利用者のニーズをもとに改善を図る。</p> <p>⑤.2 新居浜市と連携した、新居浜生涯学習大学「新居浜高専市民講座」を実施する。</p> <p>⑤.3 地域の小中学校の理科教員及び中学校の技術教員を対象に「夏季実技研修会」を実施する。</p>	<p>⑤.1 小中学生対象の出前サイエンス講座については、新たに10講座を加えるなど内容を充実させ、56件の講座を実施した。毎回、満足度等のアンケート調査も行い、今後の改善に反映させることとしている。また、同講座のウェブサイトを利用者のニーズに対応し、改善した。</p> <p>⑤.2 新居浜市と連携した新居浜生涯学習大学「新居浜高専市民講座」を8講座実施した。毎回、受講者には本校独自のアンケート調査を行い、今後の改善等に反映させることとしている。</p> <p>⑤.3 エンジニアリングデザイン教育センター主催で8月17日に地域の小中学校の理科教員及び中学校の技術教員を対象に「夏季実技研修会」を開催し、18名の参加があった。</p>
<p>3 国際交流等に関する事項</p> <p>①-1.1 ISTSに、学生を参加させ発表を行う。【再掲1(4)⑧.1】</p> <p>①-1.2 ISATEに、教員を参加させ発表を行う。【再掲1(4)⑧.2】</p> <p>①-1.3 学術交流協定校の国立聯合大学(台湾)から短期インターンシップ生及び中国語教育実習生を受け入れる。</p> <p>①-1.4 在外研究員制度を利用し、学術交流協定校を含む海外の研究機関への教員を派遣する。</p> <p>①-1.5 第4ブロックグローバル高専事業に積極的に協力をするとともに、同ブロック内高専と協働して、学術交流協定校を含む海外の研究機関での研修に学生を参加させる。</p>	<p>3 国際交流等に関する事項</p> <p>①-1.1 ISTSに専攻科生物応用化学専攻2年生1名を派遣した。【再掲1(4)⑧.1】</p> <p>①-1.2 ISATEに電気情報工学科教員1名が参加し、発表を行った。【再掲1(4)⑧.2】</p> <p>①-1.3 学術交流協定校の国立聯合大学(台湾)から短期インターンシップ生1名及び中国語教育実習生2名を受け入れた。</p> <p>①-1.4 数理科教授1名を在外研究制度でカリフォルニア大学ロサンゼルス校に派遣(平成30年5月～平成31年3月)した。</p> <p>①-1.5 第4ブロックグローバル高専事業に教員2名を派遣するとともに、第4ブロックと台湾国立聯合大学共催の日台カンファレンスでは専攻科生1名、教員2名が発表を行った。また、「つやまロボットコンテスト」にシンガポール・ニーアンポリテクとの合同チームで本科生2名、教員1名が参加した。その他、学生の海外研修等への参加実績は以下のとおりである。 トビタテ留学JAPAN(カナダ)1名、トビタテ留学JAPAN(台湾)1名、台湾聯合大学インターンシップ2名、台湾文藻外語大学中国語研修5名(海外研修の引率に教員5名が参加) ①-1(その他) 8月に学術交流協定校のインドネシア国スラバヤ工科大学の訪問を受け、来年度以降の学生交流(派遣・受入)の具体的な在り方について協議を行った。 また、モンゴルの共同研究者による授業を行った。</p>
<p>①-2.1 様々な海外留学支援制度についての情報収集を行い、学生への情報提供を行うとともに、留学を希望する学生を支援する。</p> <p>①-2.2 高専機構主催の海外インターンシップへの参加を推奨するとともに、本校独自の海外インターンシップの実施も検討する。</p>	<p>①-2.1 高専機構主催の海外インターンシップの参加を学生に勧めたが、希望者はいなかった。</p> <p>①-2.2 トビタテ留学JAPANの説明会に教職員を参加させ、情報収集を行い、随時学生への情報提供を行っている。学術協定校におけるインターンシップは検討を継続している。</p>

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>②.1 外国人学生対象の3年次編入学試験に継続して参加する。</p> <p>②.2 学術交流協定校の国立聯合大学(台湾)から短期インターンシップ生及び中国語教育実習生を受け入れる。【再掲①-1.3】</p> <p>②.3 「トビタテ！留学JAPAN」への学生の応募を支援する。</p> <p>②.4 留学生に対して、学級担任のほかに所属学科ごとに担当教員(国際交流推進室員)を配置し、日常の勉学、生活、地域との交流等について指導、助言等の支援を行う。</p> <p>②.5 高専機構主催の研修等に国際交流推進室員等を参加させ、国際交流に関する情報の共有、スキルアップを図る。</p> <p>②.6 短期留学生の受け入れ、体制面及び施設面での検討を行う。</p> <p>②.7 学寮における留学生居住スペース、シェアハウス型居住部ペースについて、学寮整備計画に基づき計画的な改修整備の予算要求を行う。</p>	<p>②.1 2019年度に機械工学科3年に男子留学生1名(モンゴル国)と生物応用化学科3年生に女子留学生1名(マレーシア国)の受入が決定した。国費留学生等専門部会試験問題作成委員会委員(物理)に教員1名を派遣した。</p> <p>②.2 学術交流協定校の国立聯合大学(台湾)から短期インターンシップ生1名及び中国語教育実習生2名を受け入れた。【再掲3①-1.3】</p> <p>②.3 「トビタテ留学JAPAN」高校生コース第4期で本科生2名が採用され、無事留学を終えた。平成31年度募集分については大学生コース1名、高校生コース5名が応募し、高校生コースで4名が1次審査を通過した。</p> <p>②.4 留学生に対して、学級担任のほかに所属学科ごとに担当教員(国際交流推進室員)を配置し、日常の勉学、生活、地域との交流等について指導、助言等の支援を行った。</p> <p>②.5 全国国立高等専門学校国際交流室・国際交流センター長会議に国際交流推進室長が参加した。国際交流関係教職員スキルアップワークショップには国際交流推進室長と国際交流担当事務職員1名が参加した。</p> <p>②.6 短期留学生の受入れに際し、受入れ教員に研究費を追加配分するとともに、短期留学生の滞在中の日本語学習及び日本文化体験に対して予算措置を講じた。また、JASSOの2019年度海外留学支援制度(協定受入)に1件の申請を行ったが、不採択となった。</p> <p>②.7 学寮における留学生居住スペース、シェアハウス型居住部ペースについて、学寮整備計画に基づき計画的な改修整備の予算要求中である。</p>
<p>③.1 留学生の研修旅行を実施する。</p> <p>③.2 留学生を対象に新居浜警察署主催で「防犯・交通安全講話」を実施する。</p> <p>③.3 四国地区高専総合文化祭において、他高専留学生との交流行事に参加する。</p> <p>③.4 「留学生ウィーク」を設け、母国紹介パネルの展示を行うとともに母国紹介講演会を実施する。</p> <p>③.5 地域の国際交流関係団体が主催する異文化体験等のイベントや研修に参加する。</p>	<p>③.1 10月に留学生研修旅行(九州方面)を実施した。</p> <p>③.2 留学生を対象に新居浜警察署主催で4月に「防犯・交通安全講話」、1月に「外国人留学生110番通報訓練」を実施した。</p> <p>③.3 12月の四国地区高専総合文化祭において、他高専留学生との交流行事に参加した。</p> <p>③.4 12月に「留学生ウィーク」を設け、母国紹介パネルの展示を行うとともに母国紹介講演会を実施した。</p> <p>③.5 母国紹介(新居浜ユネスコ協会総会)、日本語スピーチコンテスト(にいはま日本語の会)、留学生歓迎交流懇談会、七夕ゆかたパーティ(新居浜ガイドクラブ)、新居浜生涯学習大学講座「留学生との交歓会」、着物パーティ(新居浜ガイドクラブ)、グローバルパーティ(SGG新居浜)に参加した。</p> <p>③.5 (その他) 学生主体の「国際交流愛好会」を結成し、短期及び長期留学生の受入支援を行うことになった。</p>

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>4 管理運営に関する事項</p> <p>①-1 校長のリーダーシップの下、効果的かつ戦略的に予算を再配分する。</p> <p>①-2 予算執行については、計画的かつ適正な執行に努めるとともに、執行後は効果を検証し、その結果を次年度以降の予算配分に反映させる。</p>	<p>4 管理運営に関する事項</p> <p>①-1 校長のリーダーシップの下、運営費の一部を校長裁量経費として確保し、「共同研究推進費」、「教育研究推進費」、「外部資金獲得推進費」及び「年度計画他重点配分経費」として、研究の推進、教育の充実及び外部資金獲得増等のため、効果的かつ戦略的に当初配分を行った。</p> <p>また、年度途中の追加予算配分時には、学内各部署に追加予算の要望を確認したうえで、校長のリーダーシップの下、緊急性・重要性の高い案件に対し効果的に予算配分を行った。</p> <p>①-2 予算執行については、予算配分の通知の際に計画的かつ適正な執行に努めるよう関係者に周知を行った。また、予算配分額及び執行額を検証し、次年度に向けての予算配分の参考となる資料の作成を行った。</p>
<p>②-1.1 今年度は、四国地区高専校長・事務部長会議を幹事校として開催する。</p> <p>②-1.2 上記会議のほか、第4ブロック校長会議等にも参加し、ブロック・地区内での情報共有を図る。</p> <p>②-2 管理職研修に主事を必ず参加させる。</p>	<p>②-1.1 5月7日に今年度1回目の四国地区高専校長・事務部長会議を幹事校として開催した。また、12月15日に2回目を、2月には3回目を開催した。</p> <p>②-1.2 6月20日に開催された第4ブロック校長会議に参加し、ブロック・地区内での情報共有・連携を図った。</p> <p>②-2 今年度の管理職研修に、学生主事を参加させた。</p>
<p>③ 業務負担軽減の取組として、クラブ活動安全管理指導業務、学生寮日直業務及び学寮指導業務については、引き続き外部委託を実施する。</p>	<p>③ クラブ活動安全管理指導業務、学生寮日直業務及び学寮指導業務の外部委託を実施し、教員の負担軽減に努めた。</p>
<p>④-1 教職員全員を対象に高専機構作成の「コンプライアンス・マニュアル」に基づくセルフチェックを実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。</p> <p>④-2 高専機構主催の階層別研修等に参加するほか、全学的にコンプライアンス意識を浸透させる研修等を実施する。</p> <p>④-3 校長・事務部長会議等で得た情報については、運営会議、教員会等で周知するなど全学的な情報共有の徹底を図る。</p>	<p>④-1 コンプライアンス意識の向上を図るため、高専機構作成の「コンプライアンス・マニュアル」に基づき、全教職員を対象にセルフチェックを実施した。</p> <p>④-2 高専機構主催の階層別研修等に参加するほか、12月の教員会において、公的研究費の不正使用防止に関する研修を行うことで、コンプライアンス意識の浸透を図った。</p> <p>④-3 校長・事務部長会議等で得た情報については、校長がその都度、運営会議、教員会等で周知を行い、全学的な情報共有の徹底に努めた。</p>
<p>⑤.1 高専相互監査において、効率的かつ効果的な監査を実施するため、監査事項等について、会計担当職員の理解を深める。また、監査事項を中心に自己点検と職員間の相互チェックを行う。</p> <p>⑤.2 高専機構の不正防止計画に則した取組を確実に実施するため、適正な体制整備を行う。</p> <p>⑤.3 学内における内部監査等が適切に実施できるよう、随時監査内容等の見直しを行う。</p>	<p>⑤.1 高専相互監査においては、事前に監査事項を中心に自己点検と職員間の相互チェックを行い、被監査校として適切に監査を受けることができた。</p> <p>⑤.2 学内規程が高専機構の不正防止計画に則したものとなっているか随時点検を行い、必要に応じて見直しを行うこととしている。会計機関の補助者及び金庫監守責任者については、適切に変更手続きを行った。</p> <p>⑤.3 学内内部監査については、より適切に監査を実施できるよう、新たに監査チェックリストを作成し、1～2月に実施した。</p>

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>⑥.1 高専機構の不正防止計画等への取組状況について、定期的に報告を行う。</p> <p>⑥.2 学内で策定した「適正な会計処理に向けた対応策」の見直しを継続的に実施し、高専機構の不正防止計画とともに周知徹底を図り、不正防止に努める。</p>	<p>⑥.1 不正防止計画に則した取組を確実に実施し、1月には機構に取組状況を報告した。</p> <p>⑥.2 「適正な会計処理に向けた対応策」については、高専機構の規則改正時など必要の都度、見直しを行うこととしている。また、高専機構の不正防止計画とともに、12月に実施した学内研修において、改めて周知した。</p>
<p>⑦.1 SPODが主催するSD研修会、人事院四国事務局が主催する研修会、中国・四国地区の国立大学法人が持ち回りで開催している職域別の研修会等への事務職員の参加を推進する。</p> <p>⑦.2 近隣大学及び近隣高専が主催する技術職員対象の研修会に参加させる。</p> <p>⑦.3 四国地区国立高等専門学校技術職員研修を主管校として開催する。</p>	<p>⑦.1 人事院四国事務局主催の「第46回四国地区中堅係員研修」(12月)に1名参加させた。国立大学法人が主催するものでは、10月に「平成30年度中国・四国地区国立大学法人等労務担当職員研修会(鳥取大学主催)」に1名を参加させた。また、11月開催には、「平成30年度中国・四国地区国立大学法人等財務会計事務研修(初級)(山口大学主催)」に1名参加させた。</p> <p>⑦.2 「平成30年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修」(8月)(技術専門職員1名)、「平成30年度西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会(機械系)」(8月)(技術専門職員1名)に参加させた。</p> <p>⑦.3 「平成30年度四国地区国立高専専門学校技術職員研修」(9月)を本校が主管校として開催し、本校からは1名が参加し発表を行った。</p> <p>⑦.(その他) 財務省会計センター主催の「第56回政府関係法人会計事務職員研修」(10/3～11/16)に1名参加させた。</p> <p>国立公文書館主催の「平成30年度公文書管理研修Ⅰ」(10月)及び「平成30年度公文書管理研修Ⅱ」(12月)にそれぞれ1名(同一職員)を参加させた。</p>
<p>⑧.1 近隣国立大学法人との積極的な人事交流を推進する。</p> <p>⑧.2 近隣の高専との間で、事務職員及び技術職員の採用に際して共同面接を行う。(今年度は職員の採用予定はないが、近隣高専の職員採用面接に協力する。)</p>	<p>⑧.1 愛媛大学人事課と協議の結果、次年度においても派遣期間の終了する2名について、後任を派遣してもらうこととなった。</p> <p>⑧.2 弓削商船高専の職員採用面接(9月は事務職員、1月は技術職員)に総務課長が面接員として協力した。</p>
<p>⑨.1 情報セキュリティ関連の委員会等を定期的に開催し、インシデント予防のための対策等について情報共有するとともに、全教職員への周知徹底を図る。</p> <p>⑨.2 高専機構や他機関が実施する情報セキュリティに関する研修への参加、また、外部講師による研修会を開催することで教職員の意識向上を図る。</p> <p>⑨.3 高専機構が策定する情報セキュリティ関連の規則等に基づき、本校の規程等についても整備(策定・更新)する。</p>	<p>⑨.1 情報セキュリティ関連の委員会等を定期的に開催し、インシデント予防のための対策等について情報共有するとともに、その都度、情報教育センター長から全教職員への周知を行った。</p> <p>⑨.2 高専機構が実施する情報セキュリティに関する研修に情報セキュリティ推進委員会委員等に参加させるとともに、外部講師を招き、教職員を対象に「未成年者のSNS利用に係る教職員向け講演会」を開催し、情報セキュリティ意識の向上に努めた。</p> <p>⑨.3 情報関連業務を所掌する情報教育センター関連規程の見直し、整理を行い、担当組織や業務を明確にさせた。</p>
<p>⑩ 高専機構の中期計画及び年度計画を踏まえて、具体的な指標、事項を設定した本校の年度計画を策定する。</p>	<p>⑩ 高専機構の中期計画及び年度計画を踏まえて、具体的な指標、事項を設定した形で年度計画を策定した。</p>

平成30年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>5. 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>① 一般管理費縮減のため、予算の計画的な執行と適正な物品管理に努める。各種事業・行事等の実施に当たっては、関係機関等と連携を密にし効率的に運営する。</p> <p>② 少額随意契約の基準額を超える契約については、真にやむを得ないものを除き、原則、一般競争入札等により実施するとともに、契約条件等の見直しを行うなど競争性の確保に努める。また、契約の適正化を図るため、一括契約ができるよう計画的に進める。</p> <p>③ 本校作成の「財務会計マニュアル」をさらに充実させるため、見直し等を行う。</p>	<p>5 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>① 不要物品の再利用やコピー用紙の両面使用を推進するなど、一般管理費の縮減に努めた。</p> <p>② 一般競争入札における一者応札の見直しとして、仕様策定段階で複数者が応札可能な仕様とすることを徹底し、競争性の担保、より安価で適正な価格での契約に努めている。また、物品調達にあたっては、可能な限り一括契約ができるよう計画的に進めている。</p> <p>③ 「財務会計マニュアル」については、現在の状況に則した内容にするため、改訂作業を進めている。</p>
<p>6. その他</p> <p>① 校長裁量経費として、共同研究推進費及び外部資金獲得推進費を設け、外部資金獲得への取組に対して予算配分を行う。</p>	<p>6. その他</p> <p>① 共同研究推進費については、4月に募集を行い、6月に各教員へ予算配分を行った。外部資金獲得推進費については、外部資金の申請状況に基づき、6月の当初配分及び10月の追加配分で各教員へ予算配分を行った。</p>